

「応急対処資材の調査研究部会」の部会員公募について

(一社)防衛施設学会では、自衛隊の防衛作戦において隊員・装備品を守るための技術について調査研究する「応急対処資材の調査研究部会」(部会長:末永防衛施設学会常務理事)を発足させます。つきましては、下記要領に基づき部会員を公募しますので、ご関心のある方はご応募ください。

記

1 応募方法

氏名、所属、連絡先、希望テーマを明記の上、E-mailにてお申し込みください。

(一社)防衛施設学会 事務局 E-mail: gakkai@jsdfe.org

2 応募期間: 令和5年1月11日から令和5年1月25日までの間

3 活動内容(概要)

自衛隊の作戦では、戦況に応じて移動する隊員・装備品を守ることが不可欠である。このため、応急対処に活用できる資材及びそれらを使用した応急対処について調査研究を行うことを目的に、以下の事項等について作業を行います。

(1) 応急対処に活用できる資材の検討

(2) 応急対処資材を使用した応急対処例の作成

別紙:「応急対処資材の調査研究部会」について

4 成果物の発表方法

成果物は自衛隊に提供するとともに、成果報告書を作成し年次フォーラム等で発表などする予定です。

5 応募資格

防衛施設学会の会員(法人会員、正会員)並びに部会長が認めた方に限ります。

6 その他

活動期間は概ね1年(無報酬)を予定しています。部会員には、必要に応じ、学会理事長から委嘱状を発出します。

以上

「応急対処資材の調査研究部会」について

1 部会の目的等

自衛隊が防衛のための各種作戦を国内各地で行うにあたり、戦況に応じて移動運用される装備品やそこに逐次補給される火器や燃料等を侵入者の攻撃から守ることは不可欠であり、また、そこで活動する隊員を守ることも極めて重要である。一方、侵入者の攻撃は、ウクライナの事態における誘導弾、砲弾の曳火射撃及びドローン攻撃等々、多種多様な手段が用いられると想定され、そのため、隊員や装備等を守る防護手段は状況に応じて適宜構築されていくべきであろう。特に離島防衛作戦では、地積が限られているため事前に強固な阻止陣地を建設しておくことを前提にはできない。このため、有事の戦闘現場で臨機に必要とされる防護のため、部隊が実施する迅速な応急対処に活用できる資材等について調査検討を深めておくことが重要である。

防衛施設学会では、学会員の持つ専門知識等を使い、自衛隊が応急対処手段として活用できる資材等について調査検討を行い、もってそれら資材を使用した応急対処例を自衛隊に提供し部隊等防護に貢献しようとするものである。

2 自衛隊における陣地構築（概要）

- 目的：人員・装備を守るため、及び火力を発揮するため
- 材料：木材、コルゲートメタル、ライナープレート、FRP、ソイルアーマー
- 構築物の一例
 - ・人員用：人員を防護するため、ライナープレート等を用いて構築する。数個を接続して指揮所として使用する場合もある。
 - ・車両用：ミサイル発射機などの車両を防護するため、ライナープレート等を用いて構築する。（敵の攻撃から早期に損耗を受けることを防止するため。）
 - ・火器用：機関銃の火力を発揮するため、機関銃用の竪穴を掘り、その上に FRP 製のカバーを被せた後、土等で FRP を覆うもの。

3 応急対処資材として活用できると考えられる資材等

- 鋼材（コルゲートメタル・ライナープレート等）
- FRP 部材
- プレキャストコンクリート部材
- ゴム部材等

4 成果物

調査研究の成果として作成する「応急対処資材活用例」が各部隊等の訓練等において参考として活用されることを期待しています。

以上